

教育改善のための人文学部学生への アンケート調査（概要）

人文学部 渡辺 登 ・ 人文学部 矢田俊文

Research for the Students of the Faculty of Humanities by Means of the Questionnaire (Outlines)

Noboru WATANABE, Toshifumi YATA (Faculty of Humanities)

In the Faculty of Humanities in Niigata University, we realized the questionnaire both on the syllabus etc. and in the specialized schooling subjects, in January of 1997. As the results of the questionnaire on the syllabus etc., the estimations by the students themselves became clear to a certain degree, relating to the various items. We consider these results are very significant and meaningful.

The points of the problems illuminated through these results must be analyzed and be corrected as soon as possible.

On the other hand, though they have the interests and wants for study, there came to be clear only a little number of the students are counted who study on the lecture subjects independently outside the schooling hours. We consider the improving of the schooling must be established, counting this point of the problem. Adding to these points, we find the students have lots of discontents on the circumstances of the schooling.

It is a very important task that not only the improving of the schooling by the teachers but also the modification of the schooling circumstances must be earnestly reviewed.

Key words: Faculty development, Questionnaire, Syllabus etc., Specialized schooling subject

はじめに

新潟大学人文学部自己評価実施委員会作業部会では自己評価を行う上で、授業、シラバス・カリキュラム等の他者評価を導入することが肝要との結論に達し、とりわけ学生による評価を自己評価の際の重要な指標として考え、学生対象のアンケート調査を実施することにした。そして、昨年（1996年）9月以来調査票の検討を行い、今年（1997年）1月に調査を実施し、今回ここに概要を報告する。報告者（矢田・渡辺）は同作業部会のメンバーであるが、今報告の文責は、あくまで報告者個人にあることとお断りしたい。執筆分担は、Iが渡辺、IIが矢田である。

I 自己評価実施委員会作業部会「シラバス等に関するアンケート」結果の概観

1. 調査の概要

調査の概要は以下の通りである。

- a. 調査期間：1997年1月
- b. 調査対象：人文学部3年次学生
- c. 調査方法：演習担当教員を通じて演習所属学生に配布・回収（237名）
- d. 回収結果：回収率62.9%（149名から回答）
- e. 調査項目：シラバス、カリキュラム、ガイダンス、掲示その他。詳細については調査票（巻末）を参照
- f. 調査票作成手順：上記の項目それぞれについて

作業部会委員の演習所属学生に対して予備調査を行い（それぞれについて「不満に思う点」「評価できる点」について自由に記入してもらう）、それに基づいて調査票を作成。

2. 調査結果の概要

以下で、調査結果についてその概要を報告するが、調査項目順にシラバス、カリキュラム、ガイダンス、掲示、その他について順次検討していきたい。

(1) シラバスについて

シラバスについて学生がどのように評価しているかであるが、まずシラバスの構成については、「目次がないので該当する講義（演習・実習）が探しにくい」とする学生が圧倒的に多い（95.3%）。実際にはシラバスにおいて科目の掲載は学年進行と対応して掲載されているが、そのことについての理解はほとんどなされていないようだ。シラバスの構成を再検討する必要があるようだ。

表1 「目次がないので該当する講義（演習・実習）が探しにくい」

	実数	%
そう思う	142	95.3
そうは思わない	4	2.7
どちらともいえない	3	2.0
計	149	100.0

表2 「科目の掲載順序が学年進行と対応しており解りやすい」

	実数	%
そう思う	35	23.5
そうは思わない	66	44.3
どちらともいえない	48	32.2
計	149	100.0

次にシラバスの記載項目であるが、現在は講義科目に関しては、講義概要・講義スケジュール・使用テキストないし参考書・成績評価の方法の4項目を、演習科目に関しては演習内容・使用テキストないし参考書

の2項目について記載するように一定程度の記載の統一化は図られているが、それに対する学生側の理解はなされていないようだ。「記載項目が科目によって異なる」とする意見に対して、半数以上の学生（53.4%）が「そう思う」としているが、「記載項目を統一したほうがよい」とする学生は約3割（36.1%）にとどまり、「そうは思わない」とする学生の35.4%、「どちらともいえない」と回答した28.5%をあわせると約6割に達する。そして記載項目に関して「各教員の自由にまかせればよい」と考える学生が過半数以上（54.7%）であることを考え合わせると一概に、シラバスに統一的な基準項目を設けることを求めているともいえないだろう。

シラバスのサイズについては約7割が「現行のA5版」を支持している。

表3 「記載項目が科目によって違う」

	実数	%
そう思う	79	53.4
そうは思わない	23	15.5
どちらともいえない	46	31.1
計	148	100.0

表4 「記載項目は各教員の自由にまかせればよい」

	実数	%
そう思う	81	54.7
そうは思わない	33	22.3
どちらともいえない	34	23.0
計	148	100.0

表5 「記載項目を統一したほうがよい」

	実数	%
そう思う	53	36.1
そうは思わない	52	35.4
どちらともいえない	42	28.5
計	147	100.0

表6 「シラバスサイズ」

	実数	%
現状のA 5 版がよい	109	73.6
A 4 版がよい	16	10.8
B 5 版がよい	23	15.6
計	148	100.0

次にシラバスの内容と授業との関係であるが、シラバスの内容が実際の授業内容と異なるかどうかについては「どちらともいえない」とする学生が多く（60.8%）、またシラバスの内容が実際の授業と違って違和感をもつ学生は約3割強（38.3%）いるが、「どちらとも言えない」とする学生もほぼ同様におり（35.5%）、また違和感をもたないとするものも2割強（26.2%）おり、シラバスの内容通りやるべきかについても、「どちらとも言えない」と過半数の学生が答えており「そうは思わない」とする学生2割強（26.8%）を合わせると4人に3人がシラバスの内容と実際の授業との関係を杓子定規には捉えていないようだ。シラバスは学生が科目の履修を決定する際の重要な資料となるものであり、出来るだけシラバスの内容通りに授業を進めていくのが望ましいと思われるが、シラバスは授業の半年以上も前に作成されるものであり、社会変化のスピードの早さ、また学問も社会の「反映態」であることを考え合わせるならば、ある程度の変更はやむを得ないと考える。しかし、なぜシラバスと実際の授業が異なるのかについて合理的な説明を学生にすることは求められるだろう。

表7 「シラバス内容が実際の授業内容と異なっている」

	実数	%
そう思う	36	24.3
そうは思わない	22	14.9
どちらともいえない	90	60.8
計	148	100.0

表8 「シラバスの内容は実際の授業と異なっても構わない」

	実数	%
そう思う	39	26.2
そうは思わない	57	38.3
どちらともいえない	53	35.5
計	149	100.0

表9 「シラバスの内容どおりに授業をすべきだ」

	実数	%
そう思う	33	22.2
そうは思わない	40	26.8
どちらともいえない	76	51.0
計	149	100.0

(2) カリキュラムについて

次にカリキュラムについて時間割編成、単位制、必要修得単位数、ゼミ制、教養II種等々の項目にわけて、その評価を問うた。本年度は本学部にとって平成6年度から始まった新カリキュラムの完成年にあたり、このカリキュラムの見直しを昨年度以来進めてきているが、このアンケートもその参考資料として貴重なデータである。

まず、時間割編成についてであるが、現在の時間割編成では「とりたい授業が重複することが多い」と考える学生が約8割（78.4%）に達し、時間割には余裕がないと考えている学生が非常に多いことがわかった。この時間割編成の窮屈さに関しては我々も問題を感じており、何らかの整理をする必要をこの結果でより一層痛感した。

表10 「とりたい授業が重複することが多い」

	実数	%
そう思う	116	78.4
そうは思わない	13	8.8
どちらともいえない	19	12.8
計	148	100.0

表11 「時間割が余裕をもって組まれており評価できる」

	実数	%
そう思う	9	6.1
そうは思わない	91	61.5
どちらともいえない	48	32.4
計	148	100.0

単位制については前後期制が望ましいとする学生が最も多く（58.8%）、現在のシステムに肯定的である。それに「併用が望ましい」とするものが続く（37.8%）。

表12 「単位制度について」

	実数	%
前後期制が望ましい	87	58.8
通年制が望ましい	5	3.4
併用が望ましい	56	37.8
計	148	100.0

必要修得単位数については「多すぎる」とする学生が過半数を越えるが（53.0%）、「そうは思わない」とする学生も23.5%おり、それに判断留保の学生22.8%を考え合わせると、一概に単位数が厳しいと考えていると即断はできない。

表13 「必要修得単位数が多すぎる」

	実数	%
そう思う	79	53.4
そうは思わない	35	23.6
どちらともいえない	34	23.0
計	148	100.0

人文学部においては3年次以降（専門Ⅲ種）に、演習科目を12単位履修しなければならない。そのうち8単位は選択した履修コースに属する演習を3、4年にわたって履修するものであるが、それ以外の4単位は課程、コースを限定せず演習を履修させる「サブゼミ制」を採用している。幅広い高度な教養を履修させるための、カリキュラム改革の目玉の一つであるが、これについて聞いた結果が以下の通りである。

「サブゼミ制」については、「負担が重く廃止してほしい」と考える学生が相対的に多いが（45.0%）、他方で「興味が広がってよい」と考える学生も一定程度おり（37.2%）、サブゼミについての評価に幅があることがわかる。今後、この結果を踏まえてサブゼミ制をカリキュラムの中でどのように位置づけるのか、再度検討しなければならないだろう。

表14 「サブゼミ制は負担が重く廃止してほしい」

	実数	%
そう思う	67	45.0
そうは思わない	42	28.2
どちらともいえない	40	26.8
計	149	100.0

表15 「サブゼミ制はコース、課程を越えて履修できるので興味が広がってよい」

	実数	%
そう思う	55	37.2
そうは思わない	43	29.1
どちらともいえない	50	33.8
計	148	100.0

本学部では平成4年から6年にかけてカリキュラムの抜本的な改革を行ったが、その考え方の一つに「教養教育の意義を再確認し、4年間の一貫教育を通じて教養科目と専門科目の相互補完的關係を保持する」（新潟大学人文学部『新潟大学人文学部の現状と展望Ⅱ』1995年3月、15頁）としており、そのための改善策として設定された「3・4年次学生向けの総合的、学際的な教養科目」が教養Ⅱ種である。

教養Ⅱ種については学生の評価は「3、4年次で履修する意味がわからず」（74.5%）、それほど「専門に限定されない幅広い関心を充足できる」ものではない（51.0%）としており、「3・4年次学生向けの総合的、学際的な教養科目」としての意義づけはほとんど理解されていないようだ。また単位数としても「8単位は多すぎる」としている（85.8%）。この質問文の設定の仕方にも問題があるが、それを割引いても教養Ⅱ種に対する不満は大きく、「教養科目と専門科目の

相互補完的關係」をどのように学生に理解させるのかが問われている。

そうは思わない	64	43.5
どちらともいえない	55	37.4
計	147	100.0

表16 「教養Ⅱ種を3、4年次で履修する意味がわからない」

	実数	%
そう思う	111	74.5
そうは思わない	21	14.1
どちらともいえない	17	11.4
計	149	100.0

表17 「教養Ⅱ種は専門に限定されない幅広い関心を充足できる」

	実数	%
そう思う	30	20.1
そうは思わない	76	51.0
どちらともいえない	43	28.9
計	149	100.0

表18 「教養Ⅱ種－8単位は多すぎる」

	実数	%
そう思う	127	85.8
そうは思わない	12	8.1
どちらともいえない	9	6.1
計	148	100.0

次に、カリキュラムの編成についてであるがその趣旨である「学習進行対応カリキュラム編成＝学年別段階編成」については以下のように、回答者のうち約4割（43.5%）がそのように理解しておらず、また「どちらともいえない」と答えた3割強（37.4%）を合わせると約8割が不十分な理解しかしていないということになる。この責任は学生自身の無理解にのみ帰するのではなく、その趣旨の周知徹底を図っていない我々自身の側にも問題があるように思われる。

表19 「学年毎に修得すべき科目が決められており、段階をふんで学ぶことができる」

	実数	%
そう思う	28	19.0

(3) ガイダンスについて

履修ガイダンスについては以下のように、現行通り（学年全体のガイダンスと履修コース別の個別のガイダンスの2段階ガイダンス）が望ましいとする学生が、6割強をしめている。ただし、履修コースごとの個別ガイダンスのみでよいとする学生も3割おり、学年全体ガイダンスの必要性を周知させる必要がある。

表20 「ガイダンスについて」

	実数	%
2段階が望ましい	94	63.1
学年全体のみでよい	8	5.4
個別のみでよい	47	31.5
計	149	100.0

就職ガイダンスについては「開催回数を増やしてほしい」とする学生が82.8%もあり、昨今の就職状況が反映されているその対応が必要である。

表21 「就職ガイダンス」

	実数	%
開催時期も回数も十分	23	17.2
開催回数を増やしてほしい	111	82.8
計	134	100.0

(4) 掲示について

掲示の仕方に対して批判的なものが多く、必要な情報を得にくいと考えている学生が6割に達している。

表22 「掲示が項目別にまとめている必要な情報が的確に得られる」

	実数	%
そう思う	25	17.2
そうは思わない	76	52.4
どちらともいえない	44	30.4
計	145	100.0

表23 「掲示が雑然とし、必要な情報が把握しにくい」

	実数	%
そう思う	91	62.3
そうは思わない	20	13.7
どちらともいえない	35	24.1
計	146	100.0

(5) その他

学習活動のスペースについては現状が十分でないと考える学生が圧倒的多数あり、過半数が、不満を強くもっているようだ。

表24 「学習活動のスペースについて」

	実数	%
十分なスペースが確保されている	12	8.3
十分ではないが許容できる	58	40.0
不十分なスペースしかない	63	43.4
全く確保されていない。	12	8.3
計	145	100.0

教養校舎については「専門科目の授業スペース」「学習スペースが不十分」とする学生は約4割であるが、教養校舎での専門教育に関係する学生の数を考え合わせると決して満足していると考えすることはできない。また、掲示板の整備も約7割の学生が望んでおり、早急な対策が望まれる。

表25 「教養校舎—専門科目の授業スペースが不十分」

	実数	%
そう思う	64	44.1
そうは思わない	33	22.8
どちらともいえない	48	33.1
計	145	100.0

表26 「教養校舎—掲示板が整備されていない」

	実数	%
そう思う	101	69.2
そうは思わない	24	16.4
どちらともいえない	21	14.4
計	146	100.0

表27 「教養校舎—学生の学習スペースが不十分」

	実数	%
そう思う	69	47.6
そうは思わない	32	22.1
どちらともいえない	44	30.3
計	145	100.0

3. 「シラバス等に関するアンケート」結果についてのまとめ

以上、「シラバス等に関するアンケート」結果の概要を報告してきた。この種の調査は初めての試みであり、質問項目の設定の仕方にも若干問題があったようにも思われるが、様々な項目について学生自身の評価が一定程度明らかになり、極めて有意義であったように思われる。この結果で明確になった問題点について既に各項で述べてきたところであり、繰り返して指摘することは差し控えたいが、早急に検討し、改善できる点は速やかに改善していくことが望まれるだろう。

II 自己評価実施委員会作業部会「専門科目の授業に関するアンケート」結果の概観

1. 専門科目の授業アンケート調査

本章では、人文学部が行なった授業アンケートの結果について報告する。授業アンケートは、1月に2、3年生向けの専門Ⅱ種という授業科目のうち講義系科目の講義時間に実施した。

アンケートは新潟大学大学教育開発研究センターのアンケート用紙を使用した。回答総数は626人であった。

以下、アンケートの結果とそれに対する私の意見を付する。(25)～(28)の自由意見を書く箇所の回答については、講義に対してきわめて高い評価を書いているものであっても、個々の講義や教員に対する個別の評価は省略している。また、意見を一般化させるために文章を少し加工しているものもある。自由意見は公表することを前提に書かれているわけではないので、一般化しにくい意見は載せていないものもある。重複している意見はすべてを載せてはいない。

2. 調査結果の概要

以下では、授業アンケートの質問と結果と執筆者の意見を記す。

授業改善のためのアンケート（学生による授業評価）

－講義科目－

まず準備としての質問です。

- (1) どの学部にも所属していますか。
- (2) 入学年はいつですか。

結果は省略する。

一般的な質問です。

- (3) この講義を選択した理由は何ですか。（複数回答可）

① 講義概要を見て内容に興味をもった	50.30%
② 指定されていた	19.80%
③ 専門との関連で必要だと思った	37.90%
④ 一般教養として必要だと思った	7.02%
⑤ 簡単に単位が取れそうだった	3.03%
⑥ 時間割の関係で選択せざるをえなかった	8.90%
⑦ その他	6.38%

シラバスを見て講義を選択していることがわかる。

(3)は、専門科目の質問としては省くべきであったと思う。

- (4) この講義の難易度は、あなたにとってどうでしたか。

① 全体としてわかりやすかった	18.20%
② わかりにくい点もあったが、全体としてかなりわかりやすかった	46.00%
③ わかりやすい点もあったが、全体としてかなりわかりにくかった	27.40%
④ 全体としてわかりにくかった	8.40%

①、②で64.2%というのはわかりやすい講義をしていると学生が考えているとみていい。

- (5) 受講してわかりにくい点が出てきた理由は何だと考えますか。（複数回答可）

- | | |
|------------------------------------|--------|
| ① 講義の程度が高すぎる | 16.30% |
| ② 受講に要求される基礎知識が不足していた（高校での未履修等による） | 40.30% |
| ③ 自分の勉強、努力が足りなかった | 48.40% |
| ④ 単位取得のためやむなく選択した | 6.38% |
| ⑤ 内容に興味をもてず勉強する気になれなかった | 11.02% |
| ⑥ その他 | 4.31% |

③が48.40%であったのは注目される。

- (6) 受講の結果、どのようなものが得られましたか。（複数回答可）

- | | |
|----------------------|--------|
| ① 興味をもっていた内容に関心が深まった | 23.96% |
| ② この分野の学問に対する関心が深まった | 37.86% |
| ③ 体系的知識が身についた | 20.77% |
| ④ 専門の準備として役立った | 21.57% |
| ⑤ 教養としての知識や考え方が得られた | 20.93% |
| ⑥ 特に何も得られなかった | 8.47% |
| ⑦ その他 | 0.32% |

この設問は専門科目の設問としてだすべきではなかった。とくに選択肢⑤は、はずすべきであった。そうであっても、この回答は学生の教養科目観を理解する上で、興味深いものがある。⑤の20.93%という数字は、講義がすべて専門科目であるにもかかわらず、約21%の学生が教養として講義を聞いていることをしめしていると思われる。専門科目であっても、自分の専門分野ではない専門科目を教養科目として聞いている学生がいるのである。

あなたの受講の様子について質問します。

- (7) どのくらいこの講義に出席しましたか。

- | | |
|---------------|--------|
| ① ほぼ全回出席した | 54.21% |
| ② 2/3くらいは出席した | 30.12% |

- ③ 1/2くらいは出席した 12.23%
 ④ ほとんど出席しなかった 3.44%

①、②で84.33%は高い出席率であるといえよう。

(8) 講義に欠席あるいは遅刻したとき、その後どうしましたか。

- ① 講義の内容を友人に聞くようにした 14.35%
 ② ノートを友人に借りて写すようにした 49.33%
 ③ 担当教員に聞くようにした 1.57%
 ④ 時には友人あるいは担当教員に聞くとか、ノートを友人に借りて写したこともある 5.72%
 ⑤ 特に何もなかった 29.03%

⑤が約30%いるのは多いのが気がかりである。

(9) 講義で理解できなかった箇所が出てきたとき、どうしましたか。

- ① 友人にたずねた 28.21%
 ② 担当教員に質問するようにした 4.57%
 ③ 関係する図書で調べるようにした 18.15%
 ④ 時には友人にたずねるとか、担当教員に質問するとか、関係する図書で調べたこともある 7.15%
 ⑤ 特に何もなかった 41.94%

⑤が42%と多い。この数字を重視して対策を考えねばならないだろう。

(10) 講義科目では、自習時間をとることを想定して単位数が決められています、自習としてどのようなことをしましたか。

- ① 指定の図書や資料を読んでみたりした 10.50%
 ② 関連する図書や資料を自分で見つけ読んでみたりした 18.01%
 ③ ノートを書き直して整理した 13.38%
 ④ 特に何もなかった 58.11%

④が58%とあまりに多すぎる。対策を立てる必要がある。

この授業の内容について質問します。

(11) 講義の主題・テーマが明確で、その趣旨にそって進められましたか。

- ① 強くそう思う 27.32%
 ② そう思う 46.42%
 ③ どちらでもない 20.77%
 ④ 反対だと思う 4.85%
 ⑤ 強く反対だと思う 0.64%

①、②で73.74%と高い。

(12) 講義の内容・説明が体系的で整理されていたか。

- ① 強くそう思う 17.73%
 ② そう思う 43.13%
 ③ どちらでもない 28.75%
 ④ 反対だと思う 9.11%
 ⑤ 強く反対だと思う 1.28%

①、②で60.96%。この比率をもう少し上げる努力が必要である。

(13) 講義の中でいろいろな概念や理論がわかるように説明されましたか。

- ① 強くそう思う 19.65%
 ② そう思う 44.25%
 ③ どちらでもない 27.16%
 ④ 反対だと思う 7.99%
 ⑤ 強く反対だと思う 0.95%

①、②で63.90%なので問題はないと思う。

(14) 講義の内容は興味あるものでしたか。

- ① 強くそう思う 23.16%
 ② そう思う 43.45%
 ③ どちらでもない 21.88%
 ④ 反対だと思う 8.47%

⑤ 強く反対だと思う 3.04%

①、②で66.61%なので問題はないと思う。

(15) 講義概要（シラバス）のとおりに進められましたか。

① 強くそう思う 12.62%
② そう思う 40.39%
③ どちらでもない 39.59%
④ 反対だと思う 5.63%
⑤ 強く反対だと思う 1.77%

③が39.59%と少し多いのが気になるところである。

(16) 各回の講義、あるいは全体の授業の内容は量的に適切でしたか。

① 強くそう思う 15.68%
② そう思う 45.79%
③ どちらでもない 30.70%
④ 反対だと思う 6.23%
⑤ 強く反対だと思う 1.60%

①、②で61.47%なので問題はなかりう。

この授業のやり方について質問します。

(17) 教員の話し方（早さ、声の大きさ、明瞭さ等）は適切でしたか。

① 強くそう思う 23.56%
② そう思う 37.82%
③ どちらでもない 23.72%
④ 反対だと思う 12.50%
⑤ 強く反対だと思う 2.40%

①、②で61.38%なので問題はないと思う。

(18) 黒板の使い方、板書の文字は適切でしたか。

① 強くそう思う 11.50%
② そう思う 31.63%
③ どちらでもない 35.47%
④ 反対だと思う 17.73%

⑤ 強く反対だと思う 3.67%

①、②で43.13%と少ない。改善すべき点があると思われる。

(19) 視聴覚教材・プリント・教科書等は適切に使用されていきましたか。

① 強くそう思う 25.40%
② そう思う 42.17%
③ どちらでもない 26.04%
④ 反対だと思う 5.59%
⑤ 強く反対だと思う 0.80%

①、②で67.57%なので、問題はない。

(20) 講義は、学生の反応を見ながら進められていると思いましたか。

① 強くそう思う 13.48%
② そう思う 33.87%
③ どちらでもない 41.73%
④ 反対だと思う 9.31%
⑤ 強く反対だと思う 1.61%

①、②で47.35%。少し改善の必要がありそうだ。

この授業の様子について質問します。

(21) 教員が講義に熱意をもっていると感じましたか。

① 強くそう思う 27.96%
② そう思う 43.60%
③ どちらでもない 24.76%
④ 反対だと思う 3.04%
⑤ 強く反対だと思う 0.64%

①、②が71.56%と学生の評価は高い。

(22) 教員が学生の質問を促し、学生の意見に耳を傾けようとしていましたか。

① 強くそう思う 12.31%
② そう思う 27.68%
③ どちらでもない 44.81%

- ④ 反対だと思う 12.80%
⑤ 強く反対だと思う 2.40%

①、②で39.99%と高くない。改善する必要がある。

㉓ この講義により、自分の考えがつかかわれたり、得るところがありましたか。

- ① 強くそう思う 17.57%
② そう思う 48.24%
③ どちらでもない 27.00%
④ 反対だと思う 5.27%
⑤ 強く反対だと思う 1.92%

①、②で65.81%。問題はなからう。

㉔ 講義室の状態や学生数などの環境は適切でしたか。

- ① 強くそう思う 20.30%
② そう思う 27.83%
③ どちらでもない 42.26%
④ 反対だと思う 7.85%
⑤ 強く反対だと思う 1.76%

①、②で48.13%。学生は授業環境には満足していないようである。

その他次の事項について、マークシートの裏面に自由に書いてください。

㉕ この講義で良かったと思う点をあげてください。

○毎回プリントが配られるので、わかりやすかった。○毎回資料が用意され、わかりやすい説明があり、とても良かった。○ビデオを使ったりするのも良かった。○プリント・スライドなどを利用して、ただ聞くだけの場合よりもわかりやすかったと思う。○シラバスに事前に参考図書が上げてあって助かった。○参考となる本をたくさん紹介してもらったこと。○ビデオをみることができたこと。○概説にふさわしい内容だった。学生に理解させることが重視されていたと思う。一方的という印象がなかった。○テキストを活用していた

点。○テキストにもとづき、きちんと整理され講義が進められていた点。○難しい内容であったが、わかりやすく教えてもらったこと。○専門的な用語がわかりやすくされていた点。○毎回、質問表が配布され、次の授業で説明がされた点。

わかりやすい説明が歓迎されている。テキスト・プリント・スライド・ビデオなどの活用を学生は評価している。参考文献の紹介が学生に歓迎されている。質問票を活用することによって学生の質問に回答することが評価されている。

㉖ この講義で良くなかったと思う点をあげてください。

○説明が時々早口になる。○話の進め方が早くてノートをとるのに苦労した。○時間通りに終わってほしい。○授業の開始がおそい。○授業回数が少なかった。○授業が時々延長すること。○講義形式の講義なのに、演習用の教室を使うのは止めてほしい。○教室が少し狭いこと。○寒すぎます。カゼを引いているのにますますひどくなりそうです。○教室が寒かった。国立大学で貧乏なのはわかるが、それにしてもコートを着て授業を受けるなんておかしい。間違っている。○シラバスに書かれた内容をすべて終わらなかった点。○シラバス通りに進まなかった。○授業の最後に急いでその講義内容の範囲を終わらせること。○内容が多すぎた。○参考図書が多すぎたため、どれを読めば良いかわからなかった。2～3冊が妥当だと思う。○教科書がほとんど使われなかったこと。○黒板の字が小さい。○先生の声が小さくて聞きづらかった。○少し授業のレベルが高い気がした。○内容のレベルが高すぎた。○おしゃべりを始終する学生が多く、教官もあまり注意しなかった。○私語がかなり多く学生に学ぶ姿勢がみられず、たびたび不快な思いをした。○講義が教員からの発信型だけであった点。

時間通りにはじめ時間通りに終わり、講義回数も決められた通りに行なうべきだというのが学生の意見で

ある。私語を注意しないのは学生には許せないようである。また、暖房設備の悪さも学生の不満であることがわかる。

㉑ この講義をより良いものにするには、どうすればよいと思いますか。

○わかりやすい参考文献を紹介してほしい。○どのような本を調べると詳しいことが知れるか、参考図書を上げてもらえともっと勉強しやすいと思う。○教科書があったほうがよい。○テキストがあった方がわかりやすいと思う。○教科書を指定してほしい。○もっと広い教室にしてください。○人数にあわせた広い教室を使うこと。○受講者をもっと減らしてほしい。○暖房を入れてください。寒いです。○プリントが英語ばかりでわかりづらい。○板書をもっとわかりやすくしてほしい。○声を大きくしてください。

参考文献の紹介や教科書使用の要求があることに注意すべきであろう。少人数の教育を要求している点も注目される。

㉒ その他、開設希望科目や設備などに対する意見を含めて、自由に書いてください。

○参考図書の紹介をしてほしい。○教室が寒い。○冬は寒いので、もっと暖房を入れてほしい。○各教室で温度調節できるようにしてほしい。○講義室が寒いので、もうすこし暖かくしてほしい。○冬の教室が寒すぎる。○教室が寒いので暖房をけちらずつけてほしい。○冬は寒くて辛いのでなんとかしてください。学務系の部屋だけが暖かいのはなぜですか。○教室が寒い。暑さは我慢できるけれども寒いと落ち着かない。暖房設備を改善してほしい。○すごく寒かった。授業中でもコートを脱げない。○授業の環境はけっして良いものではないです。冬はすごく寒い。授業の内容はとてもよいのに。環境の改善をお願いします。

○教室がめちゃくちゃ寒いです。雪国だということにいくら国立大学でお金がないからといってもあんまりだと思う。是非改善してほしい。○教室が狭かった。○学生数に対して、教室が狭かった。○教室が狭かったのもっと広い教室にしてほしい。○教室が狭い。○教室が狭いのもっと広い教室で行なった方がよい。○アンケート結果とか改善策の発表はするのですか。○多く使用されている机と椅子一体型のはいつから使用されているのか。この椅子に合う体型の学生は一体いるのだろうか。もうすこし身体に合った机と椅子で勉強したいというのはぜひたくでしようか。

㉑と同じく暖房に対する要求が多い。教室の狭さに対する意見、机と椅子の大きさに対する意見など授業環境の改善の要求が多かった。

3. 「専門科目の授業に関するアンケート」 結果についてのまとめ

以上がアンケートの結果とそれに対する私の意見である。すでに、個々の箇所述べているのであらためて述べる必要はないと思うが、特徴的な点をまとめておくことにする。

専門科目の授業アンケートの結果、講義系科目について人文学部の学生は、テキストの活用、参考書の紹介や、わかりやすい講義など、丁寧な授業を望んでいることがわかった。また、勉強意欲はあるものの、講義時間以外で講義に関する学習をする学生は多くはないことが明確になった。この点を考慮して授業改善を進めていく必要がある。

さらに、暖房をはじめとした授業の環境に対する不満が大きいことがわかった。教員の授業改善だけではなく、授業環境の改善も重要な課題である。

なお、本稿は、『新潟大学人文学部の現状と展望Ⅲ』にも掲載される予定である。

シラバス等に関するアンケート

新潟大学人文学部

◆まず、あなた御自身についてお尋ねします。

(1)あなたの所属する履修コースを以下の中から選び下さい。

()

- ①人間学、②行動基礎、③社会行動、④日本文化、⑤アジア文化、⑥英米文化、⑦ヨーロッパ文化、⑧比較社会文化、⑨情報メディア、⑩文化コミュニケーション

(2)あなたの入学年度を以下の中から選び、ご記入下さい。

()

- ①90年、②91年、③92年、④93年、⑤94年、⑥95年、⑦96年

I. まず、シラバス（講義題目・内容解説）についてお聞きします。

シラバスについて、あなたはどのように思いますか。それぞれの項目について、あてはまるものをお選び下さい。

(1)目次がないので該当する講義（演習・実習）が探しにくい。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

(2)科目の掲載順序が学年進行と対応しており解りやすい。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

(3)シラバスの内容が実際の授業内容と異なっている。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

SQ1. シラバスの内容は実際の授業と異なっても構わない。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

SQ2. シラバスの内容通りに授業をすべきだ。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

(4)記載項目が科目によって違う。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

SQ1. 記載項目については各教員の自由にまかせればよい。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

SQ2. 記載項目を統一したほうがよい。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

(5)シラバスのサイズについてどう思われますか。以下の中から、あなたの考えに近いものをお選び下さい。

- ①現状のA5版が望ましい
②A4版が望ましい
③B5版が望ましい

◇その他に、シラバスについて御意見がありましたら、自由に記入して下さい。()

II. 次に、カリキュラムについてお聞きします

カリキュラムについて、あなたはどのように思いますか。それぞ

れの項目について、あてはまるものをお選び下さい。

(1)授業時間割編成について、あなたはどのように思いますか。

(i)とりたい授業が重複することが多い。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

(ii)時間割が余裕をもって組まれており評価できる。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

(2)単位制度について、あなたはどの方法が最も望ましいと思いますか。以下の中から一つお選び下さい。()

- ①前後期制が望ましい
②通年制が望ましい
③前後期制、通年制の併用が望ましい

(3)必要修得単位数が多すぎる。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

(4)「サブゼミ」に関して、あなたはどのように思いますか。

(i)サブゼミ制は負担が重いので廃止してほしい。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

(ii)サブゼミ制はコース、課程を越えて履修できるので興味が広がってよい。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

(5)教養Ⅱ種について、あなたはどのように思いますか。

(i)教養Ⅱ種を3、4年次で履修する意味がわからない。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

(ii)教養Ⅱ種は専門に限定されない幅広い関心を充足できる。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

(iii)8単位は多すぎる。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

(6)学年毎に修得すべき科目・単位が決められていて、段階を踏んで学ぶことができる。

- ①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

◇その他、カリキュラムについて御意見があれば、以下にご記入下さい。()

III. ガイダンスについて

(1)履修ガイダンス等について、あなたはどのように思いますか。あてはまるものを一つお選び下さい。()

- ①現在のような学年全体のガイダンスと履修コース毎の個別ガイダンスの2段階ガイダンスが望ましい
②学年全体のガイダンスのみでよい
③個別ガイダンスのみでよい

(2)就職ガイダンスについて以下のような意見がありますが、あなたはどのように思いますか。あてはまるものを一つお選び下さい。()

- ①現在の開催時期も回数も十分である
②開催回数をもっと増やしてほしい

◇その他、ガイドランスについてその方法、内容、設定時期について意見があればお書き下さい。()

IV. 掲示について

掲示について、以下のような意見がありますが、あなたはどのように思いますか。当てはまるものを一つお選び下さい。

(1) 掲示が項目別にまとめられていて必要な情報が的確に得られる。()

①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

(2) 掲示が雑然としていて必要な情報が把握しにくい。()

①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

◇その他、掲示場所、掲示方法、掲示内容について御意見があれば自由にお書き下さい。()

V. その他

(1) 学部の学生スペースについて

学習活動に利用できるスペースについてあなたはどのように思いますか。当てはまるものを一つお選び下さい。()

①十分なスペースが確保されている

②十分なスペースではないが、何とか許容できる

③不十分なスペースしか確保されていない

④スペースが全く確保されていない

(2) 教養校舎の利用について以下のような意見がありますが、あなたはどのように思いますか。それぞれ、当てはまるものを一つお選び下さい。

(i) 人文学部の専門科目の授業スペースが十分に確保されていない。()

①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

(ii) 掲示板が教養校舎に整備されていない。()

①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

(iii) 人文学部学生の学習スペースが十分に確保されていない。()

①「そう思う」 ②「そうは思わない」 ③「どちらとも言えない」

◇その他に気がついたことがあれば、自由にご記入下さい。

()